

## 乗兼の森跡

乗兼の森といわれる60坪(200㎡)ぐらいの、ほこらや五輪塔がある森があった。

榎・椿・ネズミモチの木や、真竹・女竹の生えている竹やぶがあり、地主様として田植えのときに御神酒と握り飯を供え、祭日や正月にはしめ縄を張っていた。

杉氏に関係のある森で、上杉謙信の死後、後継について争がおこり、戦に敗れた上杉憲政の弟、憲包(のりかね)が杉氏を頼ってきて死去し、この森に葬られたといわれており、馬屋(周南団地・周陽地区)にも憲包田(乗兼田)という地名があり、憲包の知行地があったと推定される。

明治32年にこの森は取り除かれたが、この辺りの地名を乗兼といっている。



## 河表城(城山)跡

戦国期の山城である。天正13年(1585年)2月9日付の杉元相・元宣連署状(社寺由来)に興元寺の四至を示して「西者河表城山荒人神森の北」とある。

この河表城は興元寺の西側にあつて、川を挟んで興元寺山と対しており、野上氏の旧城を、野上氏に代わつて領主になった杉氏が居城としたものと思われる。

東西に細長い地形で、頂上には少し平地があり井戸の跡らしいものがあつたが、外に城郭の遺構はなかつた。現在は開発により山もなくなりつつある。

